

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號一第 卷四第

行發日一月一年六正大

論說

官業問題ニ就キテ(一).....	法學博士	神戸正雄
體質廢類問題(二).....	法學博士	財部靜治
戰時ノ我輸出品ノ粗製濫造(二)完.....	法學博士	戸田海市
消費ニ關スル學說ノ發達(二).....	瀧本誠一
經濟心理學ノ組織的研究(二).....	米田庄太郎
米券倉庫ヲ論ス(二)完.....	法學士	河田嗣郎

雜錄

賤民名稱考.....	文學博士	新村出
女ニ子ヲ生マス政策.....	米田庄太郎
原始亂婚ニ就イテ.....	文學士	高田保馬
寶曆ノ豫算.....	法學士	本庄榮治郎
歐洲ニ於ケル工場監督機關ニ就テ(二)完.....	山本美越乃
經濟雜話(七).....	法學博士	田島錦治
戰後ニ對スルニ大準備.....	法學士	河田嗣郎
新著紹介及ビ寄贈書目.....

原始亂婚ニ就イテ

高田保馬

人類ノ原始ノ男女關係ヲ以テ亂婚的ノモノナリトスル主張ハ一時學者ノ間ニ頗ル勢力ヲ得タリキ。而シテ有リナル社會學者ノ間ニモ此說ヲ採用スルモノ少カラズ、すべんさあ、ぐむぶろむつち、されす・い・ふねれ、ナド皆之ヲ高調シ、近クハこるねほマタ此說ヲ承ケタリ。然ルニ轉ジテ、家族發達史又ハ社會史ノ研究者ノ間ニハ、原始亂婚說ノ漸次ニ其信用ヲ失墜シテ、之ヲ否定スルモノノ益勢ヲ加ヘ來ルヲ見ル。勿論原始ヨリシテ人類ガ家族ヲナシタリト云フ思想ハ人類ノ思想其物ト共ニ久シカル可シト雖、近時原始亂婚說ガ一世ヲ風靡シタル後、之ニ反抗シテ所謂科學的精神ヲ以テ之ヲ主張スルニ至リシハ實ニすたるけニ始マル。すたるけノ思想ハうねすたあまあくニ至リテ充分ノ展開ヲ見タルガ、爾後家族ノ歴史ニ關スル著書多クハ此原始亂婚否定說ヲ承ケザルモノナシ。

原始亂婚ヲ否定シ原始單婚家族ノ存在ヲ主張スル所謂新説ガ益勢ヲ得ツツアル間ニ於テ、吾人ハ敢テ今、此新説ヲ否定シ、原始亂婚ノ否定ノ否定ヲ企テント欲ス。小篇モトヨリ要ヲ盡サズト雖、吾人ガ主張ノ大體略次ノ如シ。

原始亂婚ヲ否定シ原始單婚ノ存在ヲ主張スルモノモ、其議論ハスベテ推測ノ上ニ立テリ、コレ人類原始ノ生活ト云フモノガ僅ニタダ推測ニヨリテノミ考究シ得ラルルニヨルナリ。而シテ其推測ノ根據トナレル諸點ヲ見ルニ一トシテ充分ナルモノナシ。彼等ハ第一ニ動物生活トノ比較ヨリシテ人類ノ原始ニ家族ノ存在シタル事ヲ主張セントス。種々ナル段階ノ動物ハ殆ンド皆家族ヲナシテ住ミ殊ニ高等ナル動物ニ於テ然ルヲ見ル。コレ動物ニアリテ幼兒養育ノ必要ハ自ラ男女ノ一時的又ハ永續の共棲ヲ必要トスルガ故ナリ。人類ハソガ優秀ノ知能ヲ有セルガ故ニ家族ヲ創メタリト見ル可キニ非ズ。人類ハ一ノ動物トシテ他ノ動物ト共通ノ性質ヲ有セルガ故ニ原始ヨリ既ニ家族生活ヲ營ミシモノナリ。サテ

此論據ハ實ニ原始單婚論者ニトリテ最決定的ノモノナリト云ハザル可カラズ。何トナレバ他ノ論據ハ之ニ比シテ甚ダ薄弱ナレバナリ。人類ノ原始狀態ノ復原ニ於テ動物生活ノ狀態ヲ參考スル態度ニ關シテハ吾人ト雖全然贊同ノ意見ヲ有ス。トハ云ヘ、論者ノ前提トナセル事實ハ甚ダ不精確ナルヲ免レズ、猿類コトニ類人猿ノ家族生活ヨリシテ人類原始ノ男女結合ノ狀態ヲ推斷スルハ決シテ其當ヲ得ザルモノナリ。家族生活ト結社生活トノ間ニ密接ナル相關關係アル事ハ疑フ可カラザル事實ナルニ拘ハラズ、人類ノ結社生活ハ決シテ猿類ノソレト同一視シ得可キニ非ズ。吾人ニ內存スル群居ノ欲望ハ之ヲ彼等ニ認ムルヲ得ズ、彼等ノ生活ノ多クハ家族の孤居トモ云ヒ得可ク、平素僅少ノ群ヲナスニ過ギズ加之若シ假ニ類人猿ノ家族生活ヨリ、原始人ノ家族生活ヲ推測シ得ト假定スルモ其結論ハ決シテ原始單婚論者ニ有利ナルモノニハ非ズ。ちんばんじいハ或ハ一雄一雌ノ結合ヲナセドモ、或ハママ、一雄多雌ノ結合ヲナセリ。じりらハ多

ク一雄多雌ナリト云フ。而シテぢつぽんハ一雌多雄ノ生活ヲ營ミおらんぐうたんハ之ニ反シテタダ一時的ノ一對的結合ヲ形ルニ過ギズ。其他ノ猿類ニアリテハ一雄一雌ナルモアレド、一雄多雌ナルモ亦多シトス。吾人ハコレラノ事實ニ本ヅイテ、如何ニシテ原始人ノ單婚家族ヲ營ミシ事ヲ推斷シウルカ。然レドモ、結社生活ト家族生活トノ相關ヲ考ヘ來レバ、吾人ハ必ズヤ、カカル類推ノ根據ヲ常ニ原始ノ人類ト同ジク結社の生活ヲ營ム所ノ哺乳類ニ覺メザル可カラズ。然ルニ群居のナル哺乳類ノ家族生活ハ或ハ一雄多雌ニ非ザレバ即チ亂婚ナリ。強力ナル雄ガ其競争者ヲ逐斥スル事ニヨリテ數多ノ雌ヲ獨占シ之ト共棲スル多婚ノ群ニ非ザレバ、數多ノ雄ハ數多ノ雌ヲ共有スル亂婚ノ群ヲナス。高等ノ動物ニ於テ一雄一雌ノ單婚家族ヲ見ル事極メテ普通ナリト云フ者アレドモ、カカル場合ハタダ、孤居の離散の生活ヲ營メル動物、殊ニ肉食動物ニ於テ普通ナルノミ。群居の生活ヲ營メル哺乳類ニアリテハ例外ニ屬ス。カルガ故ニ吾人若シ動

物ノ家族生活ノ事實ヨリシテ原始人類ノ家族生活ヲ推測セントセバ、其結論ハ寧ロ之ヲ以テ多婚のナルカ又ハ亂婚のナリト見ナサザル可カラズ。勿論動物進化ノ歷程ニ於テ此ノ如ク相隔レルモノノ間ニ行ハルル類推又ハ推測ハ其價值ニ於テ貧弱ナリトノ非難ヲ加フルモノアランモ、吾人ハ此論結ヲ棄テ去ル可キ何等積極的ノ理由ヲ發見シ得ザルナリ。而シテ此ノ如キ見地ニ立ツ時吾人ハ原始人類ノ男女結合形態トシテ多婚カ亂婚カ、何レカ一ヲ選擇セザルベカラズ。然レドモ吾人ノ遠祖ガ一般的ニ一夫多妻ノ生活ヲ營ミタリト信ズ可キ證據ハ全然コレナシ。吾人ハカクテ原始ノ男女關係ヲ以テ亂婚のナリシトナス事ノ最モ合理的ニシテ而モ已ム可カラザルヲ認ム。

其他ノ證據ニ至リテハ猶薄弱ナルヲ免レズ。幼兒養育ノ必要ハ必ズヤ他ノ動物ニ於ケルガ如ク原始人類ニ於テモ男女ノ協力ヲ必要トシ從ヒテ家族ヲ成サシメンナラン、マタ男子ノ嫉妬ハ文明人ニ限ルニ非ズ、自然民ニ於テモ既ニ強烈ナ

ルヲ認ム、然ラバ原始ノ人類ニアリテモ、ソガ充
分ニ作用シ從ヒテ自ラ單婚的ナル永續結合ヲ形
成セシナラン。此ノ如キハ原始單婚論者ニヨリ
テ一般ニ主張セラルル所ナリ。然レドモ幼兒養
育ノ必要ハ原始單婚說ヲ支持センニ餘リニ薄弱
ナル支柱ナリ。動物ガ高等ナルモノトナルニ連
レテ産兒數ノ減ズル事親ノ保護ヲ要スルノ益多
キ事ニ就イテハ何人モ異存ナシ。然レドモ此保
護ノ必要ノ増加ガ必ズヤ原始人類ヲシテ家族生
活ヲ營マシメタリト信ズル事能ハズ。高等ナル
哺乳類ニアリテ子ガ親ノ保護ヲ要セザルモノナ
シ。然ルニ拘ハラズ全然家族ヲ形成スル事無ク
亂婚ノ生活ヲ營メルモノ其數決シテ乏シキニ非
ザルナリ。加之家族ヲナセルモノニアリテモ一
雄多雌ノ生活ヲ營メルモノ少カラズ、甚シキニ
至リテハ一雄ニシテ百乃至百二十ノ雌及幼兒ヲ
率フル反芻類アリト云フ。カカル生活ニ於テ雄
ガ子ノ養育ニ對シ全然關知スル事ナキハ云フマ
デモナキナリ。知ル可シ此際家族ノ成立ガ子ノ
養育ト何等相關スル所ナカリシヲ幼兒ハ勿論保

護ヲ要ス、然レドモ此保護ハ重ニ女子即チ母ノ
保護ニシテ必ズシモ男子ノ保護ヲ要セズ、男子
ノ保護ヲ要ストスルモ必ズシモ父ノ保護ヲ要セ
ズ。養育ト家族ノ形成トノ關係ハ甚ダ遠クシテ
決シテ一義的聯絡ノ存スルモノニ非ザルナリ。
殊ニ人類原始ノ生活ニ於テハ天産ノ豐富ニシテ
幼兒ノ養育ハナホ女子ノ手ヲ以テ充分ニ行ハレ
得タリシナラント推測シ得ル餘地アルヲヤ。殊
ニマタ、父ノ愛ノ原始的ナラズ、低級ノ自然民
ニアリテスラ、其薄キ事周知ノ事實ナリ、種々
ナル動物ニアリテハコノ事更ニ甚シ。從ヒテ
子ノ出生ハ男女ノ結合ヲ永續ニシ鞏固ニスト云
ハンヨリ寧ロ之ヲ薄弱ナラシムル事少カラズ。
餘リニ低級ノ動物ニ例ヲ取ル如クナレド、鳥類
ノ中ニハ子ノ養育ノ爲ニ男女相分ルルモノ少カ
ラズ、マタ猫ノ如キハ父ガ動モスレバ其子ヲ殺
サントスルガ故ニ母ハ力メテ之ヲ父ニ見出サレ
ザラントシテ隱匿ニ腐心ス。吾人ハ此等ノ事實
ヲ認メナガラ如何ニシテ養育ノ必要ガ家族ノ必
然的存在ヲ意味スト信ジツベキカ。勿論吾人ハ

カク云フ事ニヨリテ養育ノ必要ガ如何ナル場合ニモ家族形成ノ動力タリ得ズト主張スルモノニ非ズ、或場合ニ於テハ養育ノ必要ガ他ノ既存ノ事情ト結合シ以テ家族ヲ形成スル事アラン、而モ逆ニ養育ノ必要ハ常ニ家族ヲ生ズト云フモノアランカ、ソハ甚シキ誤解ナルコト上ニ述ベタル如シト信ズ。次ニ男子ノ嫉妬ハマタ原始婚姻ノ支持點ヲナセリ。然レドモ今日ノ自然民ノ間ニ於ケル嫉妬ノ程度如何ニ關シテハ諸種ノ報告ノ内容區々ニシテ必ズシモ彼等ノ強キ嫉妬ヲ保障スルモノニ非ズ。嫉妬ノ缺如又ハ其微弱ヲ立證ス可キ材料モ豊富ニ存在セリ。此點ヨリ見ルモ此論據ハ決シテ決定的ノモノト云フ可カラズ。然レドモ姑ク、自然民ニモ充分ノ嫉妬ヲ認メ置ク事トスベシ。嫉妬ニヨリテ家族殊ニ單婚家族ヲ生ズト説クモノハコレ男子ガ嫉妬ニヨリ女子ヲ克服シ之ヲ其命ニ從ハシムル所ニ家族ヲ生ズト説クモノナリ。然レドモ吾人ノ疑問ハナホ此主張ノ根柢ニ存ス。人類ニ於ケル家族ノ成立ハコレ女子ノ男子ニヨリテ克服セラレタル結

果ナルカ。又ハ男子ノ女子ニヨリテ克服セラレタル結果ナルカ。外觀上ニ於テハ女子ガ往々奴隸ノ如キ境遇ニ沈淪シ男子ハ勝利者トシテ之ヲ壓迫セルニモ似タル可シ。然レドモ吾人ハ立入リテ考フルニ決シテ其然ラザルヲ認ム。人類家族ハ女子ノ勝利ナリ。男子ヲシテ眞ニ勝利者タラシメ眞ニ其性欲ト嫉妬トニ充分ノ支配ヲ與ヘシメバ亂婚カ然ラズバ多婚(一夫多妻ニシテ而モ一時的ナル)ナル可シ。男子ノ性愛ハ決シテ終生的永續ノモノニ非ザルハ數多ノ社會學者ノ認ムル所ナリ。然ルニ持續的單婚家族ノ形成セラレタルモノコレ明ニ男子ノ女子ニ對スル服從ナリ。此服從ノ原因ガ性欲上ノ吸引力ニアルカ或ハ社會ノ必要ニ出ヅル社會的威力ニアルカハ今敢テ説ク所ニ非ズ。然レドモ、家族ノ成立ガ既ニ男子ノ服從ニヨルトセバ、其任意ノ欲望タル嫉妬ガカカル制度ヲ齎シタルモノニ非ザルコトヲ論結セザルベカラズ。